



3月末、何につけても温度差がありすぎるパプアニューギニア・ポートモレスビーから、JICAシニアボランティアを終えて帰国しました。バタバタと出かけ、2年間音信不通、気温34度の生活から突如まどうすら寒い日本に体が驚き、早速大風邪に見舞われてしまい、帰国報告が遅れの重ね重ねの不義理者をつい昨日まで一緒だったように迎え入れていただき感謝感激です。

世界で一番暮らしにくい国、在留日本人の1.8人に1人が被害にあっている、ワーストワンの国から帰って、最初に感じたことから報告いたします。

人間は置かれた場で夫々そのように形成されると言いますが、全くそのとおりでした。帰国第一印象、誰の顔を見ても「日本は平和で安全な国だなあ！」でした。戸と言わず窓と言わずバーグラバー（鉄柵）でしっかり守り、門には必ずセキュリティが居り、夜はそれに番犬が加わる緊張のベースの上に成り立っている普通の暮らし。日本から来て二日が三日目の若者がよく路上で襲われるのは、彼等が漂わず無防備感を讀みとられているからだと思えます。

それと便利を追求しすぎると不便に集束してしまう両極の姿をPNG(パプアニューギニア)と日本の中に見せつけられました。

PNGには大小800の部族と800の言葉がありワントークと言う社会規範で成り立ってきました。それは同一部族内の相互扶助の強い結束と、あまり働かなくても食物が得られる気候で守られたパラダイスです。それを押し進めてゆくと強固な排他規範の上に成り立つ硬直集団国家が出来上がります。

太平洋戦争で日本敗色のきっかけはこの国からでした。日本軍兵士は銃で戦うより餓死者が多かったのは、高温多湿ジャングルでの集団移動に食料の補給もなく体力を使い果たしてしまっただけからしてもこの国の特殊性がわかります。

国会を見学した人は「まるで村長会議だ、まだ独立途上国だ！」と言っていました。

天然資源は豊富です。銅・原油・天然ガス、おまけに貴金属も出ます。海洋資源も豊富です。そして先進国に搾取され続けています。POM(首都のポートモレスビー)には仕事場がない人であふれています。私は在任中6回たかりとスリに見舞われましたが4回は警官のたかりでした。

PNGは自他ともにパラダイスの国と言います。嘗て欧米の女性をパラダイスパードの羽で美しく装いましたが、乱獲でめったに見られなくなり、貨幣

やマークのデザインや象徴でしか見られなくなりました。しかし彼らの心の中にはしっかりと根付いています。

一方、我が国は敗戦の一文無しから全てを振り棄てて経済復興のみを目指し、「新しくて便利なものはいいもの、古いものは不便でわるいもの」の掛け声で一心に働き、遂に経済大国の名を手にししました。ふと気がつくとき生きる術を知る知恵者先人も古いものと捨ててしまい、子育ても出来なくなっていました。現在は 価値は情報にあり 少しでも早く情報を手にした者が勝ちを制する。それには便利な道具ITを我が物にすること、バーチャルコミュニティ仮想社会を目指しています。庶民はTVのニュースも送り手の意思と選択が働いているにも拘らず、いつの間にか画面で見たものが自分が直に見たという確信に変わり、しまいにはそれが当たり前になってしまっています。ですから庶民は「すぐ帰っておいで」の言葉が出て来なくなり、振り込め詐欺の餌食になっています。実際の手ごたえから物事を掴みたい、その思いで帰国報告にはビデオもスライドも使わず、極力持ち帰ったものでお話ししました。

お話をPNGに戻して、私の住居からポートモレスビーの湾が一望でき、日本軍に沈められたオーストラリア輸送船の赤さびた残骸がいまだに海面から突き出しています。

その手前に浮きドックの様なものの上に放置され赤さびたブルドーザーが70台ありました。使える部品を集めたらまだ何台かは使用に耐えると思いましたが、ここにはその技がありません。ここでまず沢山の職業訓練校を作り修理能力をつける、修理能力がつけば部品が作れる、部品製造の力がつけばそのものを作れる。時間はかかるがそれが自信と国力に繋がる近道ではないか、それにはもう一つ彼らの職場が必要です。独立を勝ち取った国ではなく独立させられた国、搾取されやすい国の姿を見た感じです。

私の仕事はPNGの師範学校での視聴覚教育の講師でした。

この国の教育制度が、小学校の6年制が8年制に変わり、それに伴って先生の資格も上げねばなりません。そこで追加履修のため、これから学校を背負ってたつ役割の先生たちがPNGEI(エデュケーションインシュティテュート)に集まってきます。電気さえ来ない所からや、パソコン万能信者や、いろいろです。

教員免許さえ持っていない私はどこから手をつければよいのか大汗が始まりました。

まず視聴覚機材は先生が子供たちに授業内容をより効果的に手渡しするための道具で、どんなに高価な機材でも先生の代わりには絶対ならない。一番大切なのは先生あなた自身だ、機材はあなたの道具だから使いやすい道具を工夫したり、作って子供たちの想像・創造力を育てよう、電気が無くても問題ない、パラダイスを目指す子供たちを育てようと語りかけ、この教室で楽しんだことをあなたの教室であなたの子供たちともう一度楽しんでくださいから始めました。出席簿のチェックは先生たちが自分で入れること、問題提起はクイズ形式で頭を回転させ、1テーマ終わるごとに、なぜこれをやったのか説明しました。

自己紹介ではファミリーツリーで二人の奥さんはどう表現するか、子供を理解する方法に自分自身の子供時代のショートストーリーを語ってもらうとか。

地図作りでは自分の平均歩幅を知ること、また歩いた時間で距離がわかり地図がつかれる、そして地図が読めるようになった子供は未知の土地を想像でき、それを創造力につなごうと、先生たちは自作の地図をOHPで子供たちに話しかけるように発表し、その表現方法は三つの約束事、北を上にも縮尺を入れる、キーマークをしるす、あとは自分の工夫でといたらほとんど公園などにあるような案内図のような楽しい地図になってしまいました。

紙芝居作りでは彼等はグループでいてもバラバラで他人のことは不干渉です。部族が違う集りではワントークが平和に収まる知恵なのかもしれません。グループで一つの作品を作るためには意思の疎通が必要と、作品のテーマ、タイトル、役割、見せる子供の年代など話し合いながら、プレゼンテーションの日を決め、作業日程は逆算して決めることをやりました。楽しみに待っている子供たちの期待を壊してはいけないと強調、この国は先送りが当たり前だからです。フローチャートが良くできているグループはいい作品ができ、いいプレゼンテーションができています。

このようにして、あと二つ三つの我流のカリキュラムで改良を重ねながらやりました。

帰国時の送別会で、我々の目線でものを見、協力してくれた松田の様な後継がほしいと言われ、これはいいカウンターパートに恵まれ、学長の理解があったからだと思えます。

天地人、時と場と人のネットワークがびたりそろ

った2年間でした。

この国にも天地人がそろい、パラダイス国になることを祈ります。

(東京武蔵野多摩クラブ:2010年5月例会卓話)